

一次の文章は、校正者が自身の仕事について書いたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、校正とは本が出版される前に文章を読んで、内容の誤りを正したり不足な点を補ったりすることです。

観光船サークルラインは、マンハッタンが、縦に細長い、しかし極度に稠密な島であることを実感できる格好の乗り物だ。船は、ハドソンリバー岸を出発点とし南下、自由の女神像を眺望しつつ、かつて世界貿易センタービルが聳え立っていたマンハッタン南端を回って、イーストリバーに入りこれを北に遡行する。

ウォール街のビル群、ニューヨークマラソンが通るブルックリンブリッジ、やがて現れるスタイリッシュな国連本部ビル。アールデコのクライスラービル。白い羊羹を削ぎ切りにしたようなシテイコップビル。ひととき高いエンパイアステートビル。次々と見せ場がやってくる。

(福岡伸一『生物と無生物のあいだ』)

サントリー学芸賞、新書大賞を受賞したベストセラー『生物と無生物のあいだ』はこんなふうになります。著者の研究者人生の起点になったアメリカはマンハッタン。トランクひとつを手旅立ち、与えられた研究室の窓からイーストリバーを見下ろすと、満員の観光船が川を行き交っている。かつてはあの船の上からマンハッタンの摩天楼を見上げる観光客のひとりだった自分が、いまは同じ船をこうして見下ろしている……映画のような映像が目に浮かぶプロローグです。

ところが、そんな原稿を編集者に渡してしばらくしてから、著者のもとに送られてきたゲラには「バーンとマンハッタンの地図のコピーが貼り付け」られ、「各ビルの位置がマーカーペンで塗られていた」のだそうです。何事かと思えば「見える順番が違います」。

位置関係からしてエンパイアステートビルが見えるのはクライスラービルよりもずっと前、国連ビルが見えるのはさらにその後ではないか、という校正者からの指摘でした。

「見える順番が違います。」などという指摘、自分にはできる気がしないと腰が引けてしまうのは地理に苦手意識があるからです。方向音痴という引け目があつて、いつまでたつても地図と仲良くなれない。ランドマークの名称を確認するだけなら辞書でもこと足りますが、地図を広げひとつひとつ印をつけ、観光船の航路をたどりながら位置関係を確かめて、船上から見える景色を想像していくことで初めて「見える順番が違います。」と気がつける。

著者はこの指摘を読んで「確かに校正者の言うとおり。」と認めます。そのうえで「この部分は、書いたときの流れを尊重してもらつてこのままとした。」というのです。

テレビやSNSの影響か、校正の仕事の中でもとりわけ「校閲」の部分が注目されることが増えました。調べもの、事実確認、ファクトチェックなどさまざまな呼び方がありますが、固有名词や数字、事実関係に誤りがないかどうかを信頼のおける資料を使って調べ、確かめる工程です。文字や言葉の誤り以上にこうした「事実」に誤りがないか神経を尖らせるのは、「事実」は誰の目にも正誤が明らかな事柄だからです。文字や言葉で「誤り」とされるものの中には、かならずしも誤りとはいえないものもあります。でも、固有名词や数字などの誤りは誰が見ても歴然とした「誤り」、新聞の校閲記者は「あつてはならない致命的なもの」とさえいいます。ビルの「見える順番が違う」のは事実反している。だから改めねばならない。そう考える読者がいたとしても当然です。

ですが、校正とははたしてすべてを「事実」に即して正すべき仕事なのでしょうか。

新聞やノンフィクションのような事実を伝えるためのメディアにおいては、正確であることは大前提です。たつたひとつの発言の裏を取るために東京から北海道まで足を運ぶ、著者のそんな地道な積み重ねを、校正者が裏付け補強する。でも『生物と無生物のあいだ』はそうした性質の文章ではありません。著者が「考えた末」に「書いたときの流れを尊重してもらつてこのままとした。」というのは、この文章においては事実よりも優先されるべきものがあるということです。頭の中で何十回も何百回も反復された記憶は、事実とは違っているかもしれない。でも、その人にとっては真実です。

「目ざとい読者がそのうち指摘してくるかもしれない。」と著者はいいます。「でも私はあえてこう書いたのです。そういえるプロセスがここには含まれている。」と。校正者は「事実としては、こうではありませんか。」と指摘します。採る／採らないは編集者と著者しだい。採られなかった指摘も無駄にはなりません。読者からの問い合わせに編集者は「指摘まことにごもつとも。ですが著者は『あえて』こう書いたのです。」と答えることができる。費やされた時間は建築物の筋交いのように見えないところで文章を強靱にする。

「活字の未来」と題された文章は、こんな一文で締めくくられています。

書き手、編集者、校正者。この間のてまひまが活字というものを支えているのである。

(福岡伸一『ルリボシカミキリの青』)

(牟田都子『文にあたる』による)

*注 マンハッタン——アメリカ合衆国、ニューヨーク市中心部の島。ゲラ——校正をするために仮に刷ったもの。

問一——線部1「地図と仲良くなれない」とはどういうことですか、説明しなさい。

問二——線部2「でも私はあえてこう書いたのです」と言えるのはなぜですか。理由を答えなさい。

問三——線部A「アメリカはマンハッタン」とありますが、——線部の「は」の使い方がこれと同じものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 象は日本にはもともと住んでいない。
イ ぼくが行ったことのある店はここだ。
ウ 山には行ったが海には行かなかった。
エ 曾祖父は明治は四十五年の生まれだ。
オ 彼女はそのおじさんが好きではない。

問四 〰線部B「ランドマーク」とは「その土地の目印となるもの」という意味ですが、同じように「ーク」という形の外来語・カタカナ語は多くあります。次に挙げる意味の言葉を、指定された字数で答えなさい。

- 1 機密情報などをもらすこと (三字)
- 2 煙でいぶして作った燻製 (四字)
- 3 最盛期をむかえた状態 (三字)
- 4 人やコンピュータ同士結びつき (六字)
- 5 ほかにない独自なこと (四字)

問五 〰線部C「文字や言葉で『誤り』とされるもの」とありますが、次の1～3の各文には、誤って変換された言葉が一字ずつふくまれています。誤っている漢字一字を挙げ、正しい漢字に書き改めなさい。

- 1 レポートの期限が延びたので、調査し直していたら、情報が増えすぎて収集がつかなくなった。
- 2 自宅のガレージに車を進入させようとしたら、車庫のとびらが解放されていないことに気づき、あわてて車を止めた。
- 3 会合で新たな商品について意見をかわし合ったところ、参加者から意外な発想が飛び出して関心した。

二 俳句の中には、買い物を通じて季節を描いたものがあります。次の1～6に入る語を、それぞれ後のア～シから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 春 一つだけ買う道草の 1 水田むつみ
- 夏 船旅や買つてすぐ着る 2 山崎ひさを
- 夏 いま買いいし花付 3 今かじる 小澤實
- 秋 路地売りの尻まで紅き 4 買う 吉田千嘉子
- 冬 5 の一つが言えず三つ買う 間宮あや子
- 冬 6 買う良き事ばかり書くために 寺島ゆう子
- ア アロハシャツ イ 苺 ウ 鉛筆 エ 胡瓜
- オ 鯛焼 カ ちゃんちゃんこ キ 手袋 ク 日記
- ケ 初鯉 コ バナナ サ 蓬餅 シ 林檎

三 ことわざ・慣用句の中には、数を用いたものがあります。次の1～6のに入る、数字をふくむ適切な語句を漢字で答えなさい。

- 1 悪事 を走る
- 2 一寸の虫にも のたましい
- 3 に一生を得る
- 4 酒は の長
- 5 逃げるにしかず
- 6 早起きは の得

四 「〰笑い」という言葉はいろいろあります。次の各文の にあてはまる言葉を、それぞれ指定された字数のひらがなで答えなさい。ただし、同じ言葉はくり返して使えません。

- 1 悪人どもをこらしめて、正義の味方はかかかと (二字) 笑いを残して去って行った。
- 2 弟に注意しても、(三字) 笑いをうかべるだけで、全く聞き入れようとしなない。
- 3 彼は、社長のそうおもしろくもない話に、(三字) 笑いをうかべてこたえている。
- 4 彼は、ぼくを見くびっているのか、ふんと鼻で (三字) 笑いながら近寄ってきた。
- 5 とても簡単な問題をまちがえて、(二字) 笑いするしかなかった。

五 「〇つ〇」という形の三字の言葉はいろいろあります。次の各文の にあてはまるそのような言葉を答えなさい。ただし、同じ言葉はくり返して使えません。

- (例) 自分にかけられた疑いを やつき になって打ち消した。
- 1 いきなり切りかかってきた刀を と受け止めた。
 - 2 彼が犯人だなどと なことを言うもんじゃない。
 - 3 急に意見を求められても に言葉が出てこない。
 - 4 他人の落とし物を横領するのは とした犯罪だ。
 - 5 見張りがいないのを の幸いと牢をぬけ出した。

六 次の「条件」にしたがって、漢字しりとりを完成させなさい。

〔条件1〕 示されている漢字も、A～Lの字も、すべて音読みです。

〔条件2〕 示されている漢字も、A～Lの字も、一回目と二回目とで読み方・意味が変わってもかまいません。

〔条件3〕 熟語 A B、C D、…、K L はそれぞれ逆の意味、または対の意味になる字の組み合わせです。

〔条件4〕 熟語 A B、C D、…、K L の時の漢字 A～L の読み方は、次から選びなさい。同じものはくり返して使えません。

(エン、カン、クウ、ジ、タン、チ、チョウ、テン、ヒ、ホウ、ミン、リ)

〔条件5〕 同じ字はくり返して使えません。また、示されている字を解答に使ってもいけません。

〔例〕 海 W W X X 災 Y Y Z Z 者

(読み方) イ、カ、スイ、ナン

(解答) W 水 X 火 Y 難 Z 易

身	A	A	B	B	調	C	C	D	D	常
常	E	E	F	F	前	G	G	H	H	満
満	I	I	J	J	上	K	K	L	L	衆

受験番号

令和五年度

灘中学校入学試験問題

国語

一日目

三枚のうちの三枚目

◎解答に字数制限のある場合、句読点などの記号も字数に数えます。

問五			問四					問三	問二			問一
3	2	1	5	4	3	2	1					
(誤)	(誤)	(誤)										
↓(正)	↓(正)	↓(正)			↓	↓	↓					
			↓		ク	↓	ク					
			ク				ク					
				↓								
				ク								

六

I	E	A
J	F	B
K	G	C
L	H	D

五

5	4	3	2	1
っ	っ	っ	っ	っ

四

5	4	3	2	1

三

6	5	4	3	2	1

二

1
2
3
4
5
6